

《講演者プロフィール》

Dr. Roland Alfred Solecki

(ローランド・アルフレッド・ソレッキ博士)

ドイツ連邦リスク評価研究所 (BfR) 農薬安全部 部長

生物学者であり、神経内分泌、毒性病理及び生殖毒性を専門とする。

FAO / WHO合同残留農薬専門家会議 (JMPR) のメンバーを15年以上務めたとともに、国際化学物質安全性計画 (IPCS: International Programme on Chemical Safety) 専門家グループ、殺生物剤及び農薬の健康影響評価におけるレギュラトリー毒性学に関するECの特別作業部会にも参加している。また、経済協力開発機構 (OECD) 農薬フォーラム、OECD農薬作業部会、OECDテストガイドラインプログラム等のメンバーも務めた。2015年7月より欧州食品安全機関 (EFSA) の科学委員会のメンバーである。

Dr. Vicki L. Dellarco

(ヴィッキー・デラルコ博士)

コンサルタント (前 米国環境保護庁 (EPA) 上席科学アドバイザー)

遺伝学の博士号を持ち、科学政策の開発、リスクアセスメント、農薬の毒性学及び試験方法の開発、MoA解析を専門とする。

EPAに30年以上勤務し、農薬プログラム部 (OPP)、水局 (OW) 及び国立環境アセスメントセンター (NCEA) を含むプログラムの上席科学アドバイザーを務め、2013年以降現職。国際生命科学研究機構 (ILSI)、OECDといった国際的な専門家会議のメンバーを多く務め、2002年から2012年にわたりJMPRのWHOメンバーを務めた。2008年には、化学物質の規制とリスク評価に貢献し、毒性学会よりアーノルドJ. リーマン賞を受賞。

吉田 緑博士
(Dr. Midori Yoshida)
食品安全委員会 委員

獣医学の博士号を持ち、毒性学を専門とする。

財団法人残留農薬研究所、株式会社ヤクルト本社中央研究所、財団法人動物繁殖研究所、独立行政法人放射線医学総合研究所、国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理部第二室長などを歴任し、2015年7月より現職。毒性病理学を基盤として、化学物質の品質、安全性及び有効性の評価に関する研究に従事し、特に、化学物質による臓器への影響の解明等について豊富な研究実績がある。また、FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議（JMPR）のメンバーとしても、食品に関する毒性学及び疫学の分野で活躍している。